

## 今日のキーワード 記録更新が相次ぐ日本の『景気回復』

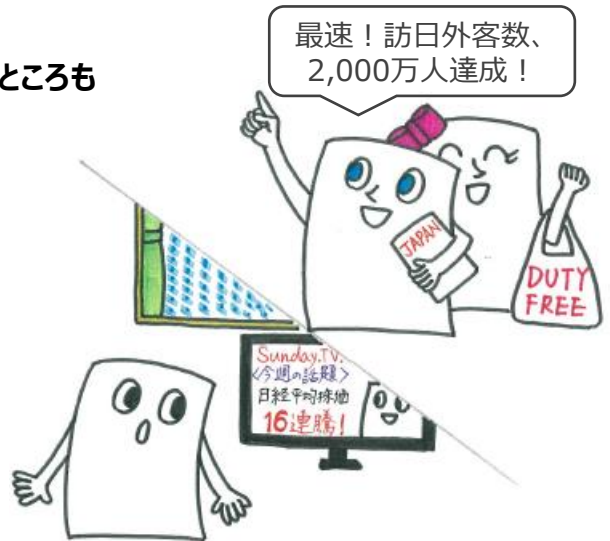
2012年12月から始まったアベノミクスなどにより、日本の景気は長期間にわたって緩やかな回復基調が続いています。足元では、株価や身近なデータなど、様々な記録の更新が散見されます。一方で、観光など消費動向の一部にもたつきが感じられるデータもあります。これらのデータをチェックすることにより、今後の『景気回復』の動向を探ってみたいと思います。

### ポイント1 「記録」更新は様々なデータで散見される インバウンド消費は好調

- 日経平均株価は10月2日から24日にかけて16連騰し、連続上昇の最長記録を更新しました。これまでの最長は、池田内閣が所得倍増計画を打ち出した時期に記録した、1960年12月21日から1961年1月11日までの14連騰でした。
- また、今年の訪日外客数は1-9月までで2,119万人となり、過去最速のペースで2,000万人超えを達成しました。今年は年間で2,800万人程度になると見られ、「ビジット・ジャパン」キャンペーンが始まった2003年の521万人と比べ、約5倍強になります。これに伴い、インバウンド消費も好調が続いています。1-9月の訪日客消費額が3.3兆円となり、こちらも同期間では過去最速のペースでの3兆円超えとなりました。

### ポイント2 消費は一時的に落ち込み 天候要因で観光地の人出は2ケタ減のところも

- 一方、10月には週末に台風が重なったことなどの天候要因により、各観光地の人出は減少となったところが多いようです。吉野ヶ里歴史公園の10月の入場者数は前年同月比▲21.6%、金沢兼六園の10月入場者数は同▲12.3%、函館五稜郭タワーの利用者も同▲15.9%になるなど、各地で2ケタの減少となりました。これは、10月の景気ウォッチャー調査・現状判断DIの家計動向関連が▲0.5ポイント低下したことと整合的で、景況感に一時的なもたつきが見られます。



### 今後の展開 引き続き『景気回復』基調は継続

- 雇用者の伸びは順調で、消費の基調は依然として堅調なことから、天候要因による個人消費の低下は一時的なものと考えられます。今後は好天となることが予想されており、株高による資産効果なども加わり消費回復が促されることで、緩やかながらも『景気回復』が続くことが期待されます。また、今後出てくる記録更新のデータにも注目です。

ここもチェック！ 2017年11月14日 『街角景気』は消費増税直前以来の高水準  
2017年11月 8日 『テクニカル指標』等から見た日本株式市場は？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。